

「お帰いなさい！ No.13」

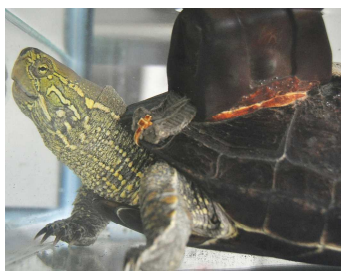


5月4日、三杉川沿いの水路の中を**大きな黒い影**がよぎった。大きなクサガメだ。後から子ガメが2頭くっついて泳いでいる。しかも背中には何かを背負っている。間違いない。今まで**行方不明**になっていた発信器付きクサガメ（**個体番号13番**）だ。最後に見たのは去年の7月29日だったので、**約9ヶ月ぶりの再会**である。

当時、部員全員で何日も探し回ったがとうとう見つからなかった。もし、何らかの原因で死んでいたとしても電波は発信しているはずである。その電波を受信できないということは、電波を受信できないほど遠く離れているとしか考えられない。搜索範囲を大幅に拡大したが、受信器に反応はなかった。そこで、私たちは「**誰かに持ち去られたのでは**」という結論に達した。しかし、実際はこんなに近くで生きていたのだ。

早速、持っていた受信器の周波数をNo.13用の**142.970MHz**に合わせた。電池の寿命はまだ残っているはずである。しかし反応はない。これで原因が判明した。**発信器のトラブル**であった。7月29日を最後に、電波を発信できなくなっていたのだ。

当時部長だった**亀田君**（現・愛媛大学農学部1年生）に電話でそのことを伝えると、とにかく無事で生きていてくれたことに安心していただようだった。



「**お帰いなさい！ No.13**（ナツバ・サーティーン）」

今、思うことはそれだけである。（発信器は回収！） ↑とても元気！

↑ここで発見！